

令和2年度 学校だより



令和3年3月8日(月)

御前崎市立第一小学校

学校教育目標

花いっぱい 自分 友だち 御一小

E-mail: 3月号

onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp

誰かのために頑張ることは 誰かも自分も幸せにする

弥生3月、日差しが優しい春色になってきた今日この頃です。本年度も最終月を迎えました。3月2日には『6年生ありがとうの会』を行いました。ここまで、コロナ禍の中で例年通りにできない行事を如何により良いものにしていくかをみんなで考え、準備していく5年生の子供たちと担任の挑戦の日々でした。準備や練習の様子を見てきましたが、体育館で待つ6年生のために、各学年が『ありがとう』の思いを込めた演目を順番で行います。6年生と一緒にいられるのは体育館での演技の時だけ。他の学年の出番の時は、教室でリモート配信画像を見て参加します。体育館にはWi-Fi機能がないため、ポケットWi-Fiをレンタルして行いました。「ありがとう」の全員合唱は、応募の合唱番組にヒントを経て、事前に録画した各学年の合唱を一つに編集して、体育館と教室で視聴しました。例年がない工夫を凝らして、すばらしい集会をみんなの力でつくり上げることができました。一つ一つの演目を見る6年生の顔には、マスクに隠れてはいましたが、満面の笑みと涙が見られました。場所は離れていても、御一小のみんなの心が一つになっていることが感じられるすばらしい集会でした。

子供たちはみんな、6年生のために一生懸命頑張り、6年生をいい気持ちにし、笑顔にすることができました。でも、それだけではありません。頑張った自分自身も笑顔になり、いい気持ちになりました。誰かのために頑張ることは、誰かも自分も幸せにする。いい気持ちが2倍3倍……10倍にもなることを実感した大切な時間でした。人のために頑張ることができる御一小の子供たちに、これからも、その行いの尊さを実感させることができる教育活動を積み重ねていきたいと考えます。御家庭でも話題にしていただけると幸いです。

6年生の「自分からノート」より 松本菜由さんと河原崎友奈さんの文章 一部抜粋

☆この会で私たちが当たり前のようにしていたことは、実は学校のためになり、みんなに感謝されることだったと知って、びっくりしましたが、とてもうれしかったです。最後に1年生の時からスライドショーを見て、私たちは徐々に大きくなってきたと実感し、たくさんの人に感謝したいと思いました。

☆今年は、6年生として見る側になり、初めてだったのでドキドキしました。フラワーアーチを通るときも緊張しました。1年生などが披露してくれた時は、感動して泣きそうになりました。5年生もコロナの中、たくさんの工夫をして六送会を行ってくれて、とてもうれしかったです。自分のためだけでなく、相手のためにできることは、素晴らしいことだと思います。来年度新しい6年生として、このままどんな壁も乗り越えていってほしいと思いました。(校長 増田久美子)

